銅・アルミ市況見通し

6月

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート

銅

4月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で0・1％増の5万4840㌧。28カ月ぶりにプラスに転じ、2年以上の長いトンネルを抜けた。品目別でも14品目中9品目が前年同月実績を上回った。ただ、まだコロナ前の水準には戻っていない。

5月の銅電線出荷量（推定値）は同プラス2・5％増の5万1500㌧で、うち国内が同1・8％増、輸出が同61％増だった。

銅輸出は、電気銅が同22・5％増の5万4350㌧、銅スクラップが同16・3％増の3万5128㌧。

銅輸入は、電気銅が同7・7％増の252㌧、銅スクラップが同1・9％増の1万94㌧だった。

銅スクラップ景況予想

5月の電気銅建値は月初の156万円から一時175万円へ急騰、その後169万円となった。流通（一次問屋）の5月在庫は、伸銅品の生産減および発生減により品薄となった。需要面は引き締まった。

自動車生産量は28カ月連続で減少しているが、来月以降の生産回復が期待できる。

LME銅・為替予想

今月は「米・FRB（連邦準備制度理事会）の金融政策」と「日銀の金融政策」に左右される。「米・FRBの金融政策」では、5月の米サプライマネジメント協会（ISM）製造業景況感指数（48・7）が前月から悪化、ダウ・ジョーンズ通信がまとめた市場予想（49・6）以下だった。好不況の境目とされる50を2カ月連続で下回り、4月の米建設支出も前月から減少した。このことから、米利下げ観測が再燃した今後も、景気減速を示す指数が出る可能性がある。利下げ方向へと、潮目が変わる可能性があると見ている。

「日銀の金融政策」では、植田和男総裁が参院財政金融委員会に出席し、金融政策について発言した。今月の金融政策決定会合でなんらかのアクションを起こすことを意識した発言だが、「これまでよりも踏み込んでいる感じはない」との受け止めがあり、日銀総裁の発言について今のところ円相場への影響は限られている。これらのことから155～159円のレンジ内での動きになると予想している。

アルミ

4月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同1・6％減の14万1485㌧。2カ月連続の前年同月比割れとなった。生産量は板類が同0・3％増の8万8867㌧、押出類が同4・7％減の5万2618㌧だった。

4月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同5・1％減の5万7340㌧（2カ月連続のマイナス）。出荷は同1・0％減の5万9520㌧（4カ月連続のマイナス）だった。

輸出はアルミ新地金が同20・8％減の314㌧、アルミ二次合金が同62・4％増の986㌧、アルミスクラップが同9・4％減の3万5949㌧、アルミ缶が同6・2％減の5127㌧。

輸入はアルミ新地金が同19・4％増の7万6951㌧、アルミ二次合金が13・7％減の6万8521㌧、アルミスクラップが同24・5％減の714㌧、アルミ合金スクラップが同8・4％減の6583㌧だった。

アルミスクラップ景況予想

LME価格は2545㌦から2665・5㌦台へと上昇傾向だった。ダイハツ・トヨタ問題の影響も収まり需要は回復、流通（一次問屋）の在庫は少ない。

需要面は、前月からさらにダイハツ・トヨタ問題が収束してきていることや、中国の「買い姿勢」の一服から、需給が引き締まりだした。

6月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	9500～10500㌦	横ばい
電気銅建値	151～171万円	横ばい
為替（1㌦）	155～159円（1カ月間TTM）	レンジ内

6月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2500～2700㌦（現物後場買い）	強い
スクラップ	プラス5～プラス10円（前月最終価格より）	強い